

うめづしんぶん 梅津新聞

(中世編④)

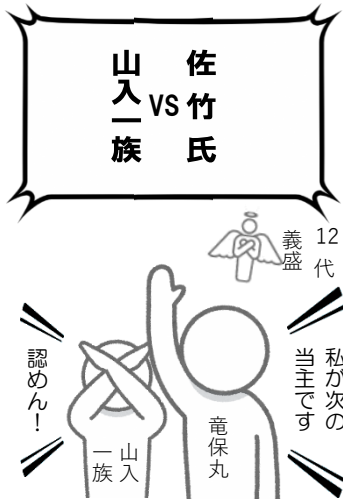
2020年
6月18日 木曜日

常陸太田市郷土資料館
(西二町 2186)
TEL:0294-72-3201

くわしくふりかえる佐竹氏の470年間(3)

長きにわたる戦い

「山入の乱」①



応永14年(1407)9月、佐竹氏

12代義盛がこの世をさりました。義盛の子どもには男子がいなかったため、誰を跡取りにするかを話し合ったところ、関東管領上杉憲定の子竜保丸を養子に迎えることが決まりました。

しかし、当時佐竹一門であった山入与義は、源氏の血をひく佐竹氏の当主を、藤原氏の血をひく上杉氏が継ぐことに

応永23年ごろには義人と署名するようになります。



反対し、次の当主として義盛の弟義有を推薦します。佐竹一門の中には、与義と同じ考えをもつ者がおり、そのため竜保丸は佐竹氏の本拠・太田城に入ることができないでいました。そして反対勢力である与義たちは、長倉城(旧御前山村・現常陸太宮市)に立て籠もりました。この乱を「山入一揆」といいます。竜保丸は、鎌倉公方である足利持氏の助けをうけ、応永15年6月、ようやく太田城に入ることができました。竜保丸の護衛についていた岩松満純は、与義たちが立て籠もる長倉城に兵を送り、戦いの末、反対勢力は竜保丸が当主になることを認めることになりました。

なお、太田城に入った竜保丸は、応永17年(1410)元服して「義憲」と名乗りました。その後義仁と名前を改め、

一方この頃鎌倉では、鎌倉府と対立していた上杉氏(禅秀)が、幕府の將軍足利義持の弟義嗣と手を結び、鎌倉公方の足利持氏を襲撃して乱を起こしました。いわゆる「上杉禅秀の乱」です。氏憲方には鎌倉府に不満をもつ者たちが多く加わったため、関東は内乱状態になってしまいます。特に常陸国では、山入一族が氏憲方に、佐竹氏が鎌倉府方に加わり、禅秀の乱でも佐竹氏と山入一族は争うことになりました。

争いの結果は、幕府の命令を受けた関東の武士が鎌倉府の援護をしたことよって、氏憲方が敗北しました。

これで常陸国での争いもおさまったかにみえましたが、山入与義の佐竹義憲への反抗は続いていて、与義はたびたび義憲に攻撃をしかけていました。そこで持氏は応永29年(1422)10月、鎌倉に仕事に出ていた与義を攻めました。与義は一度は逃れたものの、ついに鎌倉で自殺してしまいました。

ちなみにこの時、幕府は山入与義を常陸守護職に任命しようと持氏に同意を求めましたが、与義が自殺したことで実現しませんでした。そしてこれをきっかけに、幕府と持氏の対立が深まってきます。

室町幕府 vs 鎌倉公方持氏



応永30年(1423)6月、幕府は鎌倉府の同意をもらわないまま、山入与

